

教育実習事前事後訓練プログラムの開発

(第 II 報)

南部昌敏*・中野靖夫*

(昭和62年10月31日受理)

要 旨

教育実習の事前・事後に位置づく教育実習生の実践的能力を育成するための訓練プログラムを開発し、実験的に試行した。この訓練プログラムは、①授業観察分析能力訓練、②授業設計能力訓練、③授業実施に関する教授スキル訓練の3つを内容とし、上越教育大学において1年次から4年次に開講されている各教育実習の目的及び内容をふまえ、これらの各教育実習との関連のもとにそれぞれの教育訓練がより効果的に行なわれるように構成した。本プログラムの一部を昭和60年度入学生に対して、2年次、3年次において実験的に試行した結果、学生のアンケート調査から、有効に機能するプログラムであると判断した。

KEY WORDS

teaching practice

教育実習

pre-training

事前訓練

post-training

事後訓練

classroom observation

授業観察

teaching skills

教授スキル

instructional design

授業設計

1. はじめに

近年、教員養成において、教師としての実践的能力 (Performance Competency) を育成するための重要な場面である教育実習をより効果的にするための方策の一つとして、学部において行っている理論に関する教育と教育実習との連携を緊密にすることを目的として、教育実習事前指導、事前オリエンテーション及び教育実習事後指導を学部のカリキュラムの中に明確に位置づけるための研究開発が行なわれてきた。茨山ら (1983) は、学部教育と教育実習との相乗作用の効果を期待した事前・事後指導として、教育実践研究 I・II・IIIを開発し、学部のカリキュラムに位置づけて実践をしている。浦野ら (1987) は、どの教科にも共通する基礎的授業設計法並びに教授スキルの習得を内容とした事前指導、教育実習の経験をふまえた授業分析、授業評価、授業改善の方策等の幅広い実践的能力の訓練を内容とした事後指導の各プログラムの開発を行なっている。上記の二つの研究もそうであるが、教育実習の事前・事後指導に関する開発研究は、各教員養成大学に設置されている教育工学センター、教育実践研究指導センター等を中心にカリキュラム開発として位置づけられている。

このような国内の動向の中で、筆者らは、第 I 報においては、大学における理論に関する教

* 学校教育研究センター

育と教育実習における教育実践を結び付けることを目的とした、教育実習の事前・事後に位置づく教育実習生の実践的能力を育成するための訓練プログラムの開発の基本的方略並びに教育実習Ⅱ（観察参加）及び教育実習Ⅲ（普通教育実習Ⅰ）の実習効果を高めることを目的とした授業観察プログラムについて提案した。

本報では、①授業観察分析能力訓練、②授業設計能力訓練、③授業実施に関する教授スキル

表1 教育実習と事前・事後訓練との関連（昭和59年度以前入学者）

| 事前訓練（年次-学期） | 教育実習（年次-学期） | 事後訓練（年次-学期） |
|---------------|--------------------------|---------------|
| | 教育実習Ⅰ（1-1） （実態見学） | |
| 第1段階前半（2-1） | 教育実習Ⅱ（2-1, 2） （観察・参加） | 第1段階後半（2-1） |
| 第2段階（2-3） | 教育実習Ⅲ（3-1） （普通教育実習） | 第3段階（3-2集中実習） |
| 第4段階（3-3集中実習） | 教育実習Ⅳ（4-1） （普通教育実習） | |
| | 教育実習Ⅴ（4） （特別教育実習） | |
| | 教育実習Ⅶ（4-2） （中学校実習） | |
| | 専修教育実習（4-2） | |

表2 教育実地研究と事前・事後訓練との関連（昭和60年度以後入学者）

| 事前訓練（年次-学期） | 教育実地研究（年次-学期） | 事後訓練（年次-学期） |
|---------------|--------------------------|---------------|
| | 教育実地研究Ⅰ（1） （講義1） | |
| | 教育実地研究Ⅱ（1-1） （観察・参加1） | |
| 第1段階前半（2-1） | 教育実地研究Ⅲ（2-1） （観察・参加2） | 第1段階後半（2-1） |
| | 教育実地研究Ⅴ（3-1） （講義2） | |
| 第2段階（2-3） | 教育実地研究Ⅵ（3-1） （普通教育実習） | 第3段階（3-2集中実習） |
| | 教育実習Ⅶ（3-2） （中学校実習） | |
| 第4段階（3-3集中実習） | 専修教育実地研究（4） | |

訓練の3つを内容とし、本学の1年次から4年次に開講されている各教育実習の目的及び内容をふまえ、これらの各教育実習との関連のもとにそれぞれの教育訓練がより効果的に行われるようにするための事前・事後訓練プログラムの開発とその実験試行について報告する。事前訓練は、その後に行なわれる教育実習において必要とされる実習方法を授業実践場面に関する教材を用いて事前に訓練し、その過程を通して教育実習への課題を明確に持たせるような内容である。事後訓練は、その前に行った教育実習において得た教育実践情報を分析的アプローチを用いて検討することにより、授業の特徴と問題点の明確化並びにその後の大学での実践研究への課題を持たせるような内容である。以上のような方策を実行するために授業をシステムとしてみる考え方、授業シミュレーション、マイクロティーチング、各種メディアの活用等の教育工学的手法を積極的に導入している。

なお、本学の各教育実習との事前・事後の関連は表1、表2の通りである。

2. 教育実習事前事後訓練プログラムの構成

教育実習の事前・事後訓練プログラムは、次に述べるような4段階で構成されている。

<第1段階>

(1) 訓練目標と具体的方策

教育実習II、教育実地研究III（観察参加実習）における授業観察の事前・事後訓練を志向し、特に学習者の行動観察だけに焦点を絞って次の4点を目標としている。

- ① 学習者の行動を単独で観察するのではなく、学習者を取り巻く環境とのかかわりの中で情報の入出力関係に着目して観察する方法を習得する。
- ② 外面的な行動観察だけではなく、その行動をおこした学習者の心的過程まで推測し、内面的変容まで観察しようとする心構えを持つようになる。
- ③ 授業者の教授意図及び学習者の反応応答と自己受容フィードバックの推測を通して、学習者の行動観察・知覚・解釈判断・意思決定・対応策の実施までに及ぶ一連の教師としての授業実施場面での行動の態様を観察することができるようになる。
- ④ 学級における人間関係を調査し、そのデータをマイクロコンピュータを用いて分析する方法を修得する。

以上の①、②、③の目標を達成するための具体的方策として、M. D. Merrille (1968) の学習モデルの考え方を取り入れている。このモデルは、学習者を中心として構成されており、学習者への入力情報として、刺激状況、KR情報、自己受容フィードバックの3つの要素を持っている。それらの各要素を幼稚園・小学校の実際の学習場面に当てはめ、ア. 環境からの働きかけ、イ. 対応策、ウ. その教授意図、エ. 反応・応答、オ. 自己受容フィードバック、カ. 学習者行動の解釈判断・意思決定の各情報間のつながりを記述させる。扱う教材は、学校教育研究センター授業ビデオライブラリーに保管している授業ビデオを活用する。④に関しては、学生同士で模擬的に交友関係をソシオメトリックテストを用いて調査しあい、そのデータをもとにして、マイクロコンピュータを用いて分析検討させる。

(2) プログラムの内容

第1段階のプログラムの内容を表3に示す。

表3 第1段階のプログラム

| 週 | 教育実地研究内容 | 授業形式 |
|-------------|--|------------------------------|
| 1 | a. オリエンテーション・・・日程説明, グループ編成 b. システムとしての授業観察の視点と方法 「メリルの学習モデル, シュトラッサーの教授概念モデルについて」 c. 通常の市民生活の中での「学習」・「教育」場面を題材としてメリルの学習モデルを用いてその時の環境との情報の入出力関係から記述させる。 | 講義・実習 (フィールドワーク) |
| 2 | 幼児の保育場面について, 「遊び」, 「保育活動」それぞれについて, メリルの学習モデル, シュトラッサーの教授概念モデルを用いて, 環境との情報の入出力関係を前述アからカの各項目間の関連として記述させる。 | 実 習 |
| 3 ・ 4 | 児童の学習場面について, 「授業」, 「特別活動」それぞれについて, メリルの学習モデル, シュトラッサーの教授概念モデルを用いて, 環境との情報の入出力関係を前述アからカの各項目間の関連として記述させる。 教育実習生の授業とベテラン教師の授業ビデオとを比較して考察させる。 | 実 習 |
| 5 | 国語科, 社会科, 算数科, 理科の授業観察の視点と方法について, 演習させる。附属小学校教官による講義及びそれに基づく演習を行う。 | 講義・実習 |
| 6 | 学級における人間関係を調べる一方法として, ソシオメトリックテストの実施方法及びマイクロコンピュータを用いたデータ処理方法について, 学生の模擬的交友関係データをもとにして実習を行わせる。 | 実 習 |
| 7 | 幼児・児童の行動をメリルの学習モデル, シュトラッサーの教授概念モデルを用いて, 環境との情報の入出力関係を上記アからカの各項目間の関連として記述し, 言語的・非言語的行動の特徴を考察させる。 | 教育実習II, 教育実地研究 IIIでの課題 |
| 8 | 第7週の実習において観察した幼児・児童の言語的・非言語的行動の記述結果をグループごとに情報交換し, 幼児と児童の行動を比較考察させる。 | 実 習 |
| 9 | 授業観察の視点と方法について, まとめさせる。 | 実 習 |
| 10 | 第7週の課題を9月の教育実習II, 教育実地研究IIIでも行う。 | 実 習 |

注意1. ソシオメトリックテストの調査については, 配当になった学校・学年・学級の指導教官の判断で指導教官自身が行うことであり, 実習生が自分たちの判断では行わないこと。

2. 指導教官の指示により, 指導教官が調査したデータをマイクロコンピュータを用いて分析し, 指導教官にその情報を提供し, 解説・指導を受けることはさしつかえない。

<第2段階>

(1) 訓練目標と具体的方策

教育実習II, 教育実地研究III(観察参加実習)の事後訓練を指向して, 前段階で学習した授業観察の視点と方法をふまえ, その角度からの授業設計及び授業実施に関する方略と具体的方策を修得し, 教育実習III, 教育実地研究IV(普通教育実習)への事前訓練となることを意図し, 次の4点を目標としている。

- ① 授業設計の基本的方略として, ア. 学習者と授業者を含む環境との相互作用の視点に立つこと。イ. システムとして「授業」及び「学習」を捉えること。ウ. “Human Learning”

の主張を基盤にすること。エ. 問題解決学習の設計の具体的方策をふまえること。オ. 教授メディアの選択と制作の具体的方策をふまえること。カ. 教育へのコンピュータ利用の具体的方策をふまえること。を授業設計の具体的演習を通して修得する。

- ② 教授メディアの選択と制作の基本的方策をふまえ、教材の自主制作及び各種メディアの選択に関して授業の設計とともに実施することができるようになる。
- ③ 設計した授業の目標・学習者・授業者・授業展開・教材等に関する教授方略及び目標設定、教材選択等に関する事前検討、並びに授業を実施する際の教授スキルの事前訓練を目的としたマイクロティーチングの手法を修得する。
- ④ 授業者と学習者の相互作用を促進するための各種教授スキルの要素を理解し、特に発問過程の教授スキルに関してマイクロティーチングを実施することにより実際に使えるようになる。

実施にあたっては、学校教育研究センターが作成したメディア活用マニュアル1「OHP教材の制作法」、マニュアル2「ビデオ教材の制作法」を参考にしながら、グループ及び個人ごとに自主的に学習していくように教材・教具を準備し、時間外の実習も可能とした。

(2) 教育実習III, 教育実地研究VI（普通教育実習）での演習課題

- ① 3年次の教育実地研究において行う自分の授業を、ビデオ録画する。その際、授業者と学習者のコミュニケーションが多く出現する授業を選ぶ。
- ② 録画する授業について、所定の形式の指導案を作成する。
- ③ 録画する授業を、同時に、別途録音し、ビデオテープあるいは録音テープを再生視聴して、所定の記述形式プロトコルを作成する。
- ④ 録画した授業で使用した自作のTP教材、板書カード、黒板掲示の図表、絵等をまとめておく。

以上の課題をまとめたものは、次の第3段階の教材となる。

(3) プログラムの内容

第2段階のプログラムの内容を表4に示す。

<第3段階>

(1) 訓練目標と具体的方策

3年次の教育実習III, 教育実地研究VI（普通教育実習）が教壇実習を中心とした基礎的な授業設計及び授業実施に関する訓練を目的としている点を考慮し、さらに、2年次の教育実習II, 教育実地研究III及び本実地研究の第1段階で習得した「学習」や「授業」を学習者と環境との情報の入出力関係を相互のかかわりの中で分析的に観察するという視点をふまえ、次のような3点を目標としている。

- ① 授業を教師と学習者の相互作用としての教授学習過程と捉える立場で、自分の教育実地研究授業をプロトコル・アプローチによって分析・検討し、自分の授業の特徴と問題点を解明する。
- ② 授業者の教授意図及び学習者行動に対する授業者の知覚判断を推測できるようになる。
- ③ 教授学習行動を相互作用カテゴリーシステムを用いて分析し、授業の特徴をデータを用いて把握することができるようになる。

分析にあたっては、南部ら（1983, 1987）が開発した、マイクロコンピュータを用いた「授業観察支援システム」を活用する。

表4 第2段階のプログラム

| 週 | 教育実地研究内容 | 授業形式 |
|-------------|--|-------|
| 1 | a. オリエンテーション・・・日程説明, グループ編成 b. テーマ ・授業設計の方略と基本的前提 ・授業設計の手順と方法 (学習指導案の作成の仕方) ・OHP教材制作の方略と手順・方法 c. OHP教材制作の設計をさせる。(個人課題) | 講義・実習 |
| 2 | a. テーマ ・授業実施場面における教授スキル ・発問の機能とその工夫のための視点 ・ビデオ教材制作の方略と手順・方法 b. ビデオ教材制作に関する設計をさせる。(グループ課題) c. OHP教材を制作させる。 | 講義・実習 |
| 3 | a. テーマ ・教授メディアの選択と制作 ・学校放送番組・教材映画・コンピュータの特性とその利用 ・ワープロソフトの利用法 b. ビデオ教材, OHP教材を制作させる。 c. 学校放送番組・教材映画・コンピュータの利用に関する設計をさせる。 | 講義・実習 |
| 4 ・ 5 | a. テーマ ・算数科・社会科における教材選択・制作と授業展開 (附属小学校教官による講義) b. 各グループ, 個人ごとに実習を行わせる。 | 講義・実習 |
| 6 ・ 7 | a. テーマ ・国語科・理科における教材選択・制作と授業展開 (附属小学校教官による講義) b. 各グループ, 個人ごとに実習を行わせる。 | 講義・実習 |
| 8 | a. テーマ ・マイクロティーチングの目的と方法 b. 各グループ, 個人ごとに実習を行わせる。 | 講義・実習 |
| 9 | a. 「自作した教材・選択した教材を用いた授業」について研究発表① (マイクロティーチングを導入して) | 実 習 |
| 10 | a. 「自作した教材・選択した教材を用いた授業」について研究発表② (マイクロティーチングを導入して) b. 3年教育実習Ⅲ, 教育実地研究Ⅵ(普通教育実習)への課題の説明 c. 授業ビデオ録画機器の操作法の実習を行わせる。 | 実 習 |

(2) プログラムの内容

第3段階のプログラムの内容を表5に示す。

＜第4段階＞

(1) 訓練目標と具体的方策

3年次の教育実習Ⅲ, 教育実地研究Ⅵの事後訓練として第3段階において行った実地研究をふまえ, その他の授業観察・分析方法を習得するとともに, 4年次教育実地研究への事前訓練も意図して, ニューメディアとしてのコンピュータの教育利用に焦点を当てて, 次の3点を目標としている。

- ① 授業展開をパターンとして分析する方法をベテラン教師の授業と自分の授業の比較検討をすることを通して修得する。
- ② 評定尺度法による授業評定の方法をベテラン教師の授業と自分の授業の比較検討をすることを通して修得する。
- ③ コンピュータの教育利用について，ア．教授具・学習道具としての利用，イ．教師の学級経営活動支援としての利用，ウ．学習支援としての利用，の3点について，実際の具体

表5 第3段階のプログラム

| 日 時 | 教育実地研究内容 |
|-------------------------|---|
| 第1日 9:00~11:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション・・・グループ編成，日程説明 ・教授意図・学習者行動の判断に関する分析の方法（講義・演習） ・相互作用カテゴリー分析の方法（講義・演習） |
| 第1日 11:00~ 第2日 17:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習Ⅲ，教育実地研究Ⅵでの自分の授業を教授意図，学習者行動の判断について振り返ることにより，授業設計及び教授行動の適切性について分析させる。（個人課題） （教授方略，目標の設定，学習者の特性分析，教材・メディアの選択等について） ・相互作用カテゴリー分析システムを用いて，自分の授業を分節に分け，情報提示，発問過程，学習者への対応行動，まとめ方等の教授スキルについて分析的に自己評価させる。（個人課題） |

表6 第4段階のプログラム

| 日 時 | 教育実地研究内容 |
|-------------------------|---|
| 第1日 9:00~12:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション・・・グループ編成，日程説明 ・授業展開のパターン分析の方法（講義・演習） ・評定尺度による授業評定（講義・演習） （ベテラン教師のモデル的授業場面のビデオ教材を用いて比較分析させる。）・・・グループ演習 |
| 第1日 13:00~ 第2日 17:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの教育利用（講義・演習） ①学習者にグラフィックソフトを利用させる場合の授業を設計し，ソフトの使い方をマスターさせ，指導案をワープロソフトを使って作成させるとともに，その有効性と問題点を検討させる。 ②学習者及び授業者がグラフ作成支援ソフトを利用する場合の授業を設計し，ソフトの使い方をマスターさせ，指導案をワープロソフトを使って作成させるとともに，その有効性と問題点を検討させる。 ③教師としての学級経営活動支援ソフトを利用する場合を想定して，ソフトの使い方をマスターさせ，その有効性と問題点を検討させる。 ④学習者にCAIソフトを使用させる授業を設計し，ソフトの使用法及び構造を理解させるとともに，指導案をワープロソフトを使って作成させる。さらに，その有効性と問題点を検討させる。 |

的題材を使って、操作法を修得するとともに、その可能性と問題点を検討することができる。

(2) プログラムの内容

第4段階のプログラムの内容を表6に示す。

3. 実験的試行

昭和60年度入学生に対して、教育工学実習の一環として、第1段階（2年次1学期に2時間単位で10回の試行）、第2段階（2年次3学期に2時間単位で10回の試行）、第3段階（3年次7月に15時間の集中実習）を実施し、第3段階終了後、次の6点についてアンケート調査を行った。

- ①ビデオを鏡的に利用して、自分の授業を分析・検討したこと。
- ②プロトコールを作成し、自分の授業を分析・検討したこと。
- ③教授学習行動をカテゴリー分析し、自分の授業を分析・検討したこと。
- ④教授意図及び学習者行動判断の視点から、自分の授業を分析・検討したこと。
- ⑤事前訓練は教育実習で役に立つ内容であったかどうかについて。
- ⑥視聴覚教材の利用について。

それぞれについて、「役に立ったかどうか」、「その方法を用いることによって新たに気づいたことはどのくらいあったか」、「利用したか」を5段階で調査した。また、その理由を自由記述させた。

なお、調査は、162名に対して行ったが、有効回答数は、137名であった。

4. 結果の考察と今後の課題

前述の調査結果に基づき、本プログラムの有効性を検討した。

教授・学習行動の観察能力の訓練として、学習者とその環境との情報の入出力関係を捉えさせ、学習者の心的状況まで推測させることを観察参加実習の事前訓練として位置づけているが、この内容は、授業実習前の観察実習として、「学習」を学習者と環境との相互作用として捉えることの意義を理解させることができたことが自由記述の内容を検討した結果明らかとなった。また、学習者の特徴を、その学習者の自己受容フィードバックの状況まで推測することにより捉えるようにさせたことは、その後に行う普通教育実習の事前訓練として心的状況を推測したうえで対応行動を行うという教授スキル訓練につながる重要な実習になっているということも明らかとなった。

次に、教壇実習を中心とした教育実習Ⅲ、教育実地研究Ⅵ（普通教育実習）の事後訓練として、授業実施後に、自分自身の行った教育実習授業について、ビデオの鏡的利用、プロトコール分析及びカテゴリー分析による検討、教授意図と学習者行動の検討を行わせたことは、図1からもわかるように、4つの方法とも、「大変役に立った」、「かなり役に立った」をあわせた割合が、それぞれ、89.1%、79.5%、68.6%、70.1%であり、自分の授業の特徴を把握するため

に有効に機能していると判断できる。さらに、自分自身の授業の改善の視点を明確化することができ、その後の大学での教育研究の課題を意識付けることにつながっていると考えられる。その中でも、特に、89.1%、79.5%の数字が示しているように、ビデオの鏡的利用、授業をプロトコールを用いて細かく分析する方法がかなり役に立つという結果になっているが、その2つに比べて、カテゴリー分析や教授意図の分析の方法は、教師としての授業観察分析に関する実践的能力が要求されるため、程度が高く、役に立つという割合がわずかであるが低くなっている。さらに、それらの方法を用いることによって、「新たに気づいたことがどのくらいあったか」については、図2に示した通りであるが、「大変あった」、「かなりあった」を合わせた割合が、それぞれ、86.9%、67.4%、63.5%の数字が示しているように、いままでの実習期間中に

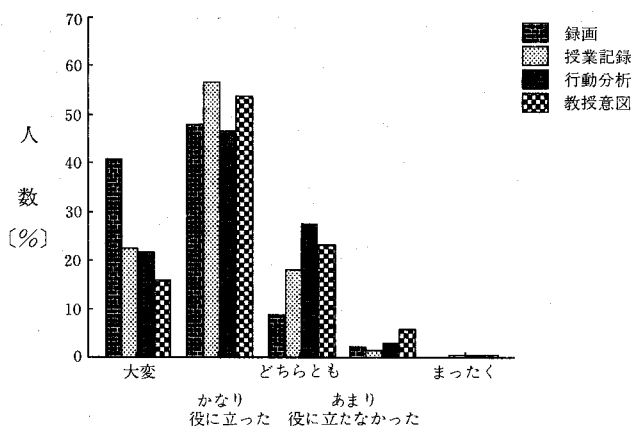


図1 授業を検討する方法に対する評価

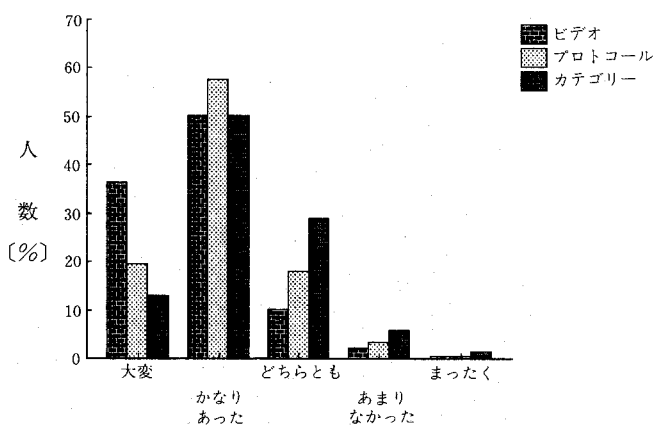


図2 新たに気づいたこと

気づかなかったことがこの4つの分析を行うことによって明確になったといえる。

次に、第2段階の実習内容についてどのように受け止めているかについて、図3に示す。「大変役に立った」、「かなり役に立った」を合わせると40.1%に達しており、概ね、有効に機能し

たとえることはできる。しかし、逆に、「あまり役に立たなかった」、「まったく役に立たなかった」と合わせた割合が32.2%もあることは、検討を要する問題である。その原因を考えるために自由記述の内容を検討した結果、マイクロティーチングによる教授スキル訓練及び教材開発・教授メディアの選択・利用法を盛りこんだ授業設計訓練等と盛りだくさんの内容になっていたため一つひとつの内容が十分に理解できないままに、次にすすんでしまっていたことが一

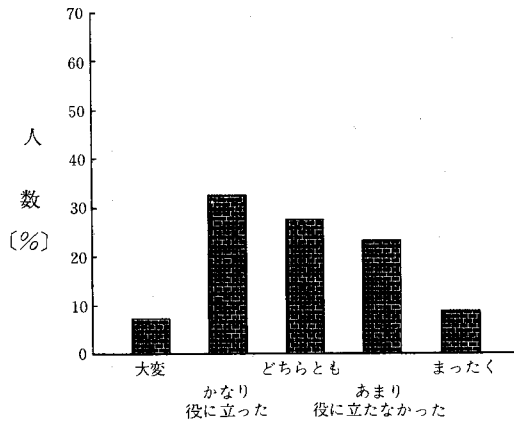


図3 第2段階の実習内容全体に対する評価

番の原因であると判明した。

最後に、視聴覚教材の活用についてであるが、「大変よく使用した」、「かなりよく使用した」を合わせた割合は、42.3%であり、しかも、「まったく使用しなかった」、「あまり使用しなかった」を合わせた割合が45.3%もあることから判断して、視聴覚教材が十分活用されているとはいえない。自由記述内容を分析してみた結果、使用したと答えたグループで一番多かったメディアは、OHPで、それも、事前訓練で指導した各種の使用方法を活用したという回答が多かった。二番目に多かったのはVTRで、数名の教育実習生で協力して、校外にビデオ取材にでかけて教材制作を行ったり、視聴覚ライブラリー、学校教育研究センターの映像教材を活用したという事例があげられていた。一方、使用しなかったと答えたグループの原因は調査していないが、各種ハードウェアは、各学校に普及しているのだが教材ソフトが少ないためになかなか利用できない、教材の準備に時間的ゆとりがない等が考えられる。これを改善するためには、教育実習で利用できる一次情報としての各種教材ソフトの整備並びにその教材情報を容易に検索できる教材情報データベースの開発が急務となってきているといえよう。

昭和61年度より、大学全体で教育実地研究の改善が検討され、各教育実地研究の事前指導の性格を持つ教育実地研究Ⅰ（講義Ⅰ）、教育実地研究Ⅴ（講義Ⅱ）が開設され、学校観察、授業観察法、教材分析及指導案の設計法、学習指導法等の基本的な考え方についての講義が教育実習の事前に行なわれるようになったことは、歓迎されるべきことである。今後は、教育工学実習として本来行うべき、①メディアの活用による授業観察・授業分析手法の訓練、②学校教育研究センターの授業ビデオライブラリーを活用したどの教科にも共通する基本的教授スキルの訓練、③教授メディアの選択と制作手法及びコンピュータの教育利用手法に関するスキルの訓

練等に重点を絞って、各教育実地研究の内容をふまえた事前・事後訓練として位置づく訓練内容・方法を開発する必要があると考える。

なお、本研究の一部は、昭和59, 60, 61年度文部省科学研究費試験研究(1)(課題番号59880023, 代表小金井正巳), 昭和60, 61年度文部省科学研究費一般研究 (C) (課題番号60580231, 代表南部昌敏) の助成を受けた。さらに、本報をまとめるにあたって、前上越教育大学学校教育学部教授小金井正巳先生, 東京学芸大学教育学センター助教授, 上越教育大学学校教育研究センター客員研究員井上光洋先生には、多大なるご指導をいただいた。ここに、厚く感謝する次第である。

参 考 文 献

- 井沢英悦・南部昌敏（1987）カテゴリー分析支援システムの開発と試行，日本教育工学会第3回大会講演論文集，87-88
- 茨山良夫・高橋哲郎ほか（1983）教育実習の事中・事後指導の開発に関する研究(1)，福井大学教育実践研究指導センター紀要，No.7：1-10
- 小金井正巳・井上光洋ほか（1980）マイクロティーチングによる教育実習プログラムの開発と評価，日本教育工学雑誌，Vol.4，No.3：113-126
- 南部昌敏ほか（1983）簡易授業分析用カテゴリーシステムの開発とそれによる教育実習生の訓練の試み，日本教科教育学会誌，第8巻，第2号：73-80
- 南部昌敏・小金井正巳（1986）教育実習事前事後訓練プログラムの開発（第I報）～授業観察訓練について～，上越教育大学研究紀要，第5巻，第1分冊：61-73
- 浦野弘・井上光洋ほか（1987）事前・事後指導を含めた教育実習プログラムの標準モデルの研究開発，東京学芸大学紀要，第1部門，教育科学，第38集：1-23

Development of Pre- and Post- Training Programmes for Teaching Practices(Part 2)

Masatoshi NAMBU and Yasuo NAKANO

SUMMARY

In the present paper, we report that we have developed a pre- and post- training programmes for student teaching. In the course student teachers learn and master classroom observation techniques in teaching-learning processes, some basic procedures and skills of instructional design, and basic teaching skills. These were evaluated by the opinion of student of teachers.

In our tryout it is found that this programmes is available for training of classroom observation techniques, basic procedures and skills of instructional design, and basic teaching skills.